



特集1

新春野鳥観察会

日時：2010年1月23日（土）12:30～15:00

『ムーチービーサで、ちゅ〜うがなびら』 講師：比嘉 邦昭さん

やっぱりムーチービーサ、とっても寒い観察会になりました。



沖縄では昔から、ムーチーの日（旧暦の12月8日）の前後に急に寒くなることを「ムーチービーサ」と呼んでいます。“ビーサ”とは「寒い・冷える」を意味する沖縄の言葉です。年が明けてからの数日、暖かい日が続いていた沖縄ですが…、今年もやっぱり寒くなりました。観察会のテーマ“寒い日の漫湖”にはぴったりの一日になりましたが、参加者はみんなとても寒そうに野鳥観察をしていました。寒くなるとここ漫湖でも、ソリハシセイタカシギやツクシガモ、ズ

グロカモメなど日頃なかなか見られない鳥さんたちに出会える確率が高くなりますが、残念ながら今回は期待した鳥さんには会うことができませんでした。そんな中、センター初の試みとして、新春野鳥観察会で「ムーチーづくり」を行ないました。この企画は参加者にも大好評で、今後センターの恒例行事にしていけたらなあと思っています。“温かいムーチー”と“寒い日の漫湖”こんな沖縄ならではの野鳥観察会に、みなさんもぜひ一度参加してみたいはいかが？

ムーチーの日って何？

ムーチーの日：沖縄では古くから、旧暦の12月8日にムーチーを食べて、その年の健康を祈願する風習があります。特に、はじめてムーチーの日を迎える赤ちゃんがいる家庭では“ハチ（初）ムーチー”といって、親戚・隣近所にムーチーを配り歩いて回ります。



ムーチー（鬼餅）：



蒸したお餅のことで「鬼餅」と書きます。由来は、「その昔、鬼になってしまった兄を退治するために、妹が釘入りのお餅を作って食べさせた」という沖縄の昔話からきています。味はスタンダードな白モチの他に、黒糖や紅イモなどで味付けされたものもあります。主に月桃の葉で包んで蒸した“カーサムーチー”がメインです。今回作ったムーチーも、センターの脇に生えている月桃の葉を使いました。

野鳥観察の講師：山城 正邦さん、又吉 勇さん（沖縄野鳥の会）、底生生物の講師：鹿谷 法一さん、鹿谷 麻夕さん（鹿谷自然案内）

湿地に暮らす、生きものたちのにぎわい。



今年の「湿地の日」のテーマは“湿地への思いやり”です。ここ漫湖にも、おそらく何百種類にもなるだろう生きものたちが、湿地を舞台に暮らしていて、その生きものすべてが繋がって生きています。そんな生きものたちのつながりを垣間見ること、漫湖に対して少しでも優しい気持ちになってもらいたいと思い、鳥と泥の生きもの、二

つの視点を組み合わせた観察会を行ないました。ところが…、外はあいにくの雨。やむなく予定変更、鳥は館内からの観察になりました。天気の影響で思うように鳥に出会えない中、食べ物や体のつくりから、鳥を見ていく講師の方のお話は、とても興味深いものでした。泥の生きもの観察はまだ小降りの雨の中、参加者の希望もあって思い

切ってみんなで木道に飛び出しました。すると参加者たちはいろんなものを見つけては、講師の方に質問攻めです。やっぱり木道はいいですね。いろんなものが発見できます。カニやトンネルミミズの巣穴、貝などが動いた跡、鳥の足跡やフンなど、そこに暮らす生きものたちのにぎわいが、今にも聞こえてきそうでした。



2010『湿地の日』パネル展

展示期間：2010年2月2日(火)～2月14日(日)

「湿地の日」パネル展では、沖縄県内のラムサール条約登録湿地の紹介や、日本全国の国立公園・ビジターセンターのパンフレットなどを展示しました。その他にも「湿地って何?」、「湿地に住む生きもの」と題したパネルは、イラストを使って湿地の様子を分かりやすく解説しています。来年は展示の内容を、さらにパワーアップしようと考えています。



漫湖の鳥かわら版 78

1月

鳥の名前	羽数	先月比
ムナグロ	78	↗
ダイゼン	20	↗
アカアシシギ	18	↘
アオアシシギ	16	↗
アオサギ	13	↘
イソシギ	13	↘
ギンムグドリ	11	↗
リュウキュウメジロ	9	↗
ダイシャクシギ	8	↗
チュウシャクシギ	6	↗
タイワンシロガシラ	5	↘
コサギ	4	↗
ミサゴ	4	↗
ハクセキレイ	4	↗
キジバト	3	↗
リュウキュウヒヨドリ	3	↗
シロハラ	3	↗
ウグイス	3	→
ダイサギ	2	→
チュウサギ	1	→
オナガガモ	1	↗
コアオアシシギ	1	↗
タシギ	1	↗
カワセミ	1	↗
イソヒヨドリ	1	↘
ドバト	7	↘
個体数合計： 236羽		
種類数： 26種		

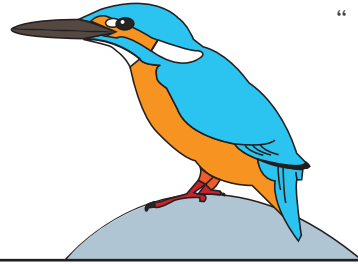
torino

今月のテーマ：カワセミの色

今月は「カワセミ」の話。カワセミは当センターでも身近に見られる鳥さんの一人です。その色彩の美しさは、野鳥ファンだけでなく、誰でも見たら感激することでしょう。そのカワセミの体の色についてのお話です。これは聞いた話。カワセミのあの特徴ある体の色、単に美しいだけでなく、こういう意味もあるそうです。背の青色は空や水面と同じ色、つまり自分の身を敵から守るため。空の上からカ

ワセミを狙う、ワシやタカなどには見つからないように。腹の橙色は木々の枝葉と似たような色、これだとエサをとる時、相手にバレにくい。カワセミが好んで食べる小魚などからしてみたら、まさかそこにカワセミがいるなんて!? という感じでしょうか。この話を聞いた時、一瞬、「なんてよく考えられてるんだ!!」と感動してしまいましたが、

これも生きものの“進化”というものなのでしょうか?



mankobon



今月おすすめの本は『ぼくからみると』。勢いのあるタッチで描かれた夏休みのある日。夏の昼過ぎのひょうたん池。そこで釣りをする男の子。その何気ない風景の中にちりばめられた、かすかな生きものたちの姿。ページをめくる度に、その生きものたちから見た風景にどんどん変わっていく。そして確実に進む時間の中で、繰り広げられる生きものたちのドラマ。最後にはハッとさせられる結末が…。



『ぼくからみると』
高木任 三郎 ぶん 片山 健 え
福音館書店 ¥838 (税抜き)

生物多様性年特別企画

「未来の過去へタイムスリップ」

期間：2月7日（日）～4月末まで



地球のいのち、つないでいこう
2010年国連国際生物多様性年

今年は生物多様性年。ここ漫湖水鳥・湿地センターでもそれに合わせた特別企画を行ないます。内容は、みんなで一つの作品を作り上げること。昔から今をつなぐ、大きな漫湖のハーリー船。そこにそれぞれの思いで、漫湖で発見した生きものや、漫湖にまつわる思い出や願い事を張り付けていきます。参加は自由。みんなの思いがたくさん詰まった、素敵なハーリー船を作りましょう!! 参加したい方は、ぜひ漫湖水鳥・湿地センターまでお越しください。

自然講座

「マングローブ染め エコバッグをつくろう」

日時：2010年3月14日（日）

① 9:30～12:00 ② 13:30～16:00

対象：小学生以上（保護者同伴になります。）

定員：各30名

持ち物：タオル、エプロン、飲み物、筆記用具

参加費：600円（※材料費、保険料を含む）

講師：並河 善知 さん（藍染なみかわ）

受付：2月23日（火）～

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

題15回

「チュラカーギ作戦」

日時：2010年3月28日（土） 10:00～

場所：漫湖水鳥・湿地センター

主催：漫湖自然環境保全連絡協議会運営委員会

内容：木道での観察会や漫湖周辺での観察会
および清掃活動など

※詳しい内容等については現在調整中です。

お問い合わせは、漫湖水鳥・湿地センターまで。



今月のセンターのようす

1

月の団体利用

学校	地域
伊良波中学校	豊見城市
浦和工業高校	埼玉県
その他	その他
豊見城市豊寿大学	豊見城市
東京都立川市議会議員	東京都
県立博物館友の会	那覇市
入館者状況	
一般入館者：	755 名
団体利用者：	169 名
今月の合計：	924 名
累計	： 127,614 名

漫

湖水鳥・湿地センター

〒901-0241

沖縄県豊見城市字豊見城 982

TEL 098-840-5121 FAX 098-840-5118

http://www.geocities.jp/manko_mizudori/

●開館時間：AM9:00～PM5:00 ●入館料：無料

●休館日：毎週月曜日（※祝日の場合は翌日になります。）

慰霊の日（6/23）、年末年始（12/29～1/3）

※団体利用の場合は事前にお問い合わせの上、お申込みください。

※幼児のみの入館はお断りしております。